

K-1デッキ

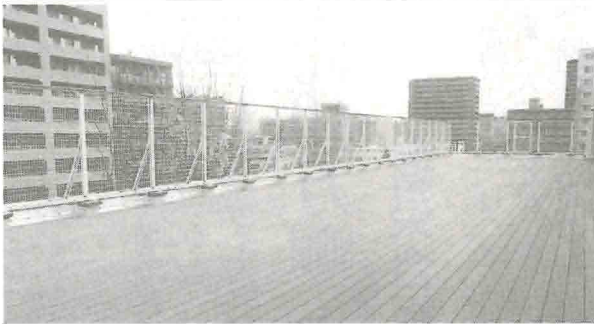
文教向けで採用増やす

ケーワンシステム

公共建築物の木造化、木質化が進むなか、木材を利用した外構材の性能が進化している。北海道を中心に二重床の供給、施工を行い、万協フロアーの特約店でもあるケーワンシステム(札幌市、原田慶一社長)が販売する、鋼製床下地とウッドデッキを採用した「K-1デッキ」が文教施設、公共施設で採用を増やしている。

同社は今年、K-1デッキシステムに文教施設向けの性能を加えた新たなウッドデッキシステム「文教P1a Yタイプ」を開発。同製品は、万協(東京都、清水雅弘社長)と実用新案を共同出願しており、その性能が注目されている。ZAM

鋼製床下地と人工木で形成するウッドデッキに、体育館に求められる床の適度な硬さと軟らかさを取り入れた。適度な弾力性を持たせることで、運動してもけがをしにくくした。日新製鋼の特許技術で製造された耐候性に優れたZAM鋼板と、万協の支持脚PDB型、支持脚固定材のスラブロックを採用し、デッキ材部分は、固定



札幌市内の小学校に施工されたK-1デッキ

条件の人工木中空タイプを使用。各社の技術を集めて作られている。ケーワンシステムは硬さ試験や弾力性試験を行い、体育館JIS規格で求められる床の硬さ100G

原田社長は「公共施設でS以下を達成することに、JISA6519準拠試験をクリアしている。万協の協力の下、泰成電機工業で繰り返し試験を行って性能向上を図り、同製品を完成させた。

え、このタイプでは繰り返し衝撃試験も行っており、耐久性が高く、性能が長続きする商品として、様々な文教施設での利用を提案していきたい」と語

ケ-ワンシステムでは、試験などでその性能を示すことで、幼稚園、保育園、老人施設や病院などでの採用を促していく。